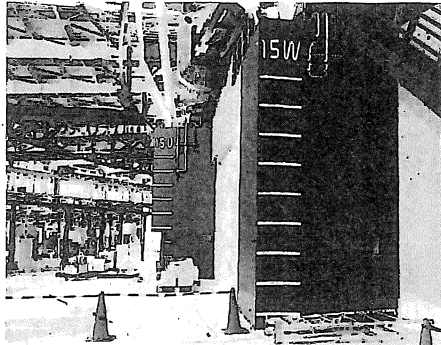


# 放射光施設 活用後押し

## 稼働を前に東北の分析需要開拓

### 地元ナルセ・HES連携

東日本



【仙台】ナルセ(山形市、佐藤正幸社長)と光エッジニアリングサービス(HES、仙台市青葉区、新野正之社長)は、相互に連携して東北地域の企業を対象とした次世代放射光施設「NanoTerasu(ナノテラス)」を活用した分析業務の支援サービスに乗り出す。ナノテラスは2024年度から本格稼働を予定。地域に根差した科学計測機器商社のナルセと各種分析業務を担うHESがタッグを組み、地域企業の放射光施設活用を後押しする。

ナノテラスは東北大学青葉山新キャンパスに整備が進む。建屋部分は完成しており、現在は建屋内でビームラインなどを整備している。運転後の課題の一つとして、地域企業の利活用促進がある。今回の取り組みでは、東

北地域に顧客を抱える地元の科学計測機器商社と分析会社が「お互い手を組むことになった」(佐藤社長)という。宮城県内企業を中心に8社が共同出資して19年に設立したHES。東北大学などとも連携し、放射光を活用した分析受託や試験支援などを手がける。すでにナノテラス利活用に向けた仙台市の「既存放射光施設活用事例創出事業(トライアルユース)」の採択先企業からダイヤモンドライクカーボン(DLC)の被膜構造の分析評価を受託した実績も持つ。今後は東北を地

盤とするナルセが抱える顧客らの高度な分析ニーズを探り、HESの分析評価につなげる仕組みを構築する考えだ。HESの富田和彦専務は「東北の企業が協力して、ナノテラスの利用促進につなげていきたい」としている。

▲来年度の運用開始に向けて整備が進むナノテラス